

2016年度を迎え、理事長・各ブロック長からのごあいさつ

SEKIAI

第17回 学術集会のご報告

第17回 学術集会のご報告

特集

在宅リハビリテーションの可能性

【寄稿】豊後龍馬会 会長 高橋 幹雄

豊後龍馬会!! 世界の海へ出港!!

『包括評価方式(DPC)』のお知らせ 他

あなたと関愛会をつなぐ身近な広報誌

関愛通信【第2号】



佐賀関病院 院長
じょう ひでのり
城 日出徳



SEKIAI

関愛通信 第2号 平成28年4月発行

社会医療法人 関愛会

〒879-12201 大分県大分市大字佐賀関750番地88 TEL09715751172



立春が過ぎ雨水となっても寒さを感じ、まさに余寒だ。でも日は永くなくなった。仕事を終える頃には、診療所隣の保育園児が思い思いに遊んでいる。竹馬の練習、追いかけて、砂遊びする子と元気いっぱいだ。

子らの影や短めに日永かな
明寛

よちよち歩きの子が私の方に歩いてきた。1歳5カ月位の子だった。孫と同じ位だったので、愛おしく思え「こんにちは」と声をかけると立ち止まった。手を振るとその子もちっちゃな手を振った。その可愛い反応が、仕事の疲れを和らげたのだった。幼子が傍にいることは、大人にとって大切だ。可愛いからではない、勿論将来世話になるという打算でもない。子供に教えられることがあるからだ。

ドロシーさんは「家族はいっしょに学ぶ仲間です」と書いているへいちばん大切なこと。私は趣味で俳句を作る。どこかの結社にも属さない自己流俳句だ。作句は通勤途中が多く、1時間に3句できることもあれば1句もできない事もある。高浜虚子の「俳句は客観写生の詩である」を肝に銘じているが、なかなか上手くい

かない。

でも先日極意を学んだ、しかも1歳7カ月の孫から。妻がメジロダンスを聞かせ踊った。孫は一瞬きよんとした。「さあ踊ろう」と誘うが動かない。妻の踊るのをじっと見ていた。そして2回目の曲を流し始めると、なんと踊りだした。上手ではないが可愛い仕草で踊った。「いいじ」と私にも踊れと誘うが、覚えていないので踊れなかった。私と孫の違いは、心構えの差だった。私は傍観者の心境だったが、孫は面白い！憶えようと妻の所作を凝視していたのだ。孫の姿勢は写生俳句の心構えに通じる気がした。「しっかりと対象を観る」という心構えこそ写生俳句の神髄だと改めて気づかされた。

「家族は一緒に学ぶ仲間」なのに、なんとということが、「3歳児虐待死」の記事があった。しかも、この犯人は「やることはやった、人生に悔いはない」と言ったとある。さらに虐待の理由は「夕食時に自分にガンをつけてきたので頭にきた」とあった。ああ今この文を書いていても胸苦しくなる、空しい……。犯人に浴びせる言葉は封印する。ただ怯えたまま亡くなった子供に謝りたい。大人社会が守れなかったことを……。

なぜなの……
坪山明寛

つづらな瞳を あどけない口元を
今わたしは正視できないでいる
あなたは何を見たの あなた何をいいたいの
ただひと言でしょう……ね
「なぜなの……」と
ごめんなさい
大人たちは答えられないでいるのです 言葉を失い
呆然として涙を流しているだけなのです
あなた達の笑顔を守れなかった無力さ
あなた達の夢を守れなかった悔しさ
あなた達の未来を保証できなかった虚しさ
背負わされた罪におしつぶされ
沈黙し頬をぬらしているだけなのです
ああ喉がつまりそうです
つづらな瞳よ やわらかき頬よ
これだけは約束します
あなたの「なぜなの……」を
忘れはしない
決して風化させることなく 問い続けます 自分に
あなたの静かな疑問を
「なぜなの 私の命はなぜ奪われた……なぜなの？」
幼い子供たちの命を守る大人社会でありたいと、強く願うこの頃です。



清川診療所
坪山 明寛
内科・血液内科
【モットー】
一日一笑、医道人道
【趣味】
写真撮影、俳句、
童話創作、囲碁
植物いじり

” 治す医療 “から 『 支える医療 』へ
” 医療モデル “から 『 生活モデル 』へ



2016年度を迎えて

関愛会理事長をはじめ、各部署の責任者に
新年度を迎えての抱負を伺いました。

社会医療法人 関愛会
理事長 増永 義則

春

風の心地よい季節になりました。
みなさまお健やかに過ごしのことと思います。

本年度も地域の皆さまの健やかな暮らしを支えることができるよう、職員一同努力してまいります。さて、ご存じの方も多いかとは思いますが、2025年には国の統計予測では国民の4人に1人が65才以上となり、いわゆる団塊の世代が75才以上となります。その頃皆様はおいづくつになられていらっしゃるでしょうか。国は2025年を目前に、住み慣れた環境で医療から介護まで包括的なサービスを受けられるシステムである「地域包括ケアシステム」の構築を推進しています。この「地域包括ケアシステム」は、おおむね30分以内に必要なおおむね30分以内に必要なサービスが提供できる日常生活圏域を目安に、主に中学校区を単位として想定しています。私も関愛会では、国がその推進の声を上げる以前の平成16年の設立当初から「地域包括ケアシステム」の構築を理念に掲げ今に至ります。設立より12年を迎える現在では、かなり理想に近い形で運営できているのでは

ないかと感じています。おかげさまで当初より積極的に取り組んでおります訪問診療では、法人全体で400名を超える患者様を診察させていただいております。医療介護施設も「治す医療」から「支える医療」へ、「医療モデル」から「生活モデル」へと変化しなければなりません。私も関愛会の強みは、急性期から亜急性期、慢性期の医療だけではなく、リハビリを含めた在宅医療や介護や生活支援等の「包括的ケア」を提供できることです。昨年度は、「ナースングホーム輝（ひかり）」、「訪問看護ステーションいろは」の開設をはじめ、新たな訪問診療の拠点として「津守クリニック」を開設いたしました。

2016年度も地域全体で高齢者を支えるべく、「地域包括ケアシステム」の推進と構築の中で、当法人が果たす役割を全うできるよう職員一人ひとりが、自己研鑽を重ねていく所存です。今後も当法人が皆様のお役に立てれば幸いです。

理事長 増永 義則

開設3年目を迎えるにあたり

関愛会 第1ブロック
介護老人保健施設 せきの郷 事務長
工藤 真一

平

素より、せきの郷へのご理解とご助力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、早いもので、平成26年4月1日に産声を上げたせきの郷は、入所者様とご家族様をはじめ、地域の方々、連携機関の皆様の手厚いサポートのおかげで、4月に3年目を迎えました。

関愛会の法人理念である「地域包括医療の推進」「地域貢献」「自己研鑽」を旗印に、地域にとって必要とされ、また、あつて良かったと思われる施設を目指し、佐賀関地区の地域福祉の一翼を担うべく、職員一丸となり、社会制度が刻々と変化する荒波の中で、立ち位置を見失わずに地域に貢献できる施設運営をしてまいります。今後とも、介護老人保健施設せきの郷を宜しくお願い致します。



さらなる成長のために

関愛会 第2ブロック
事務長
高橋 勝

我

々第2ブロックは在宅医療、在宅リハビリを柱とし、事業を展開してまいりました。昨年度は「坂ノ市リハビリテーションセンターもみの木」や「津守クリニック」を開設し、より多くの地域ニーズに応える為の体制を整えることができました。

本年は4月に坂ノ市クリニックに小児科を開設いたしました。より地域に求められる医療機関として成長していければと思います。個人的な話ですが、本年4月より、大分大学大学院福祉社会科学研究科で学ぶこととなりました。

昨今のヘルスケアシステムの代名詞である「地域包括ケアシステム」について、実践現場における在り方を研究したい、関愛会の理念「地域包括医療の推進」の意味を掘り下げ、言語化したい、そう考えています。本年度はチームとしても、個人的にも新たな挑戦の年。歩みを進め、力を蓄える、そんな1年にしたいと思います。



自分の力を出し尽くす

関愛会 第3ブロック
三重東クリニック事務長
甲斐 敏幸

法

人理念に「自己研鑽」があります。学ぶということはとても貴重、私たち日本人はそれが当たり前と思っています。世界では稀なようですが、私は私たち日本人の特性であり、美学そのものです。人の資質は、その人の学ぶ努力の積み重ねにより磨かれます。企業の強さとは、資質のより高い人の多いことだと考えます。組織は個の集積であり、個の資質向上、より高みを目指すための個の競い合いがなくては発展はないと思います。

その意味で、法人理念にある「自己研鑽」には、個人個人が企業への帰属意識を強く持ち、個として自律的に専門分野は勿論、教養を学び、人との関係強化に尽力し、自分の力を悉く出し尽くす姿勢が大切との意味が込められていると思います。豊後大野地区でも、このような企業風土が醸成されるように、事務長として努力を重ねていきたいと考えています。



これからも地域と共に

関愛会 第4ブロック
事務長
小原 淳

福

祉を取り巻く状況は年々厳しさを増し、昨年は多くの事業所が制度改定の直撃を受けました。第4ブロックも例外ではありませんでしたが、地域の皆様を支えられ無事に2016年度を迎えることができました。

さて、団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題では、30万人以上の介護職員不足が見込まれるなど、「需給ギャップ」は業界全体の懸念材料です。また、一方では十分なサービスを求めて住み慣れた地域をあとにする「介護移住」の動きも都市部では始まっています。そんな中、関愛会が理念として掲げた「地域包括医療の推進」を国が追いかけてくるかのよう「地域包括ケアシステム」構築に向けた整備がなされています。ひまわり・海風も福祉部門として、居宅・通所・訪問・入居が連携・協働し、十分なサービスを受け住み慣れた地域で継続して生活していただけるよう、ご利用者、関係各部署としっかり関わりを持ち続け、実りある年度にしたいと思います。





演題：訪問リハとエビデンス

発表者：川江章利
所 属：こうざきクリニック訪問リハビリテーション事業所
理学療法士



演題：文献レビュー「医療法人の経営状態と機能的側面からみた医療の質との関係」

発表者：伊東多聞
所 属：法人事務局



演題：佐賀県地域における訪問介護の役割とは

発表者：◎堀部恵子 渡辺壽賀子 大熊千佳 吉良ミサエ
相澤栄子 合澤恵子
所 属：ヘルパーステーションひまわり



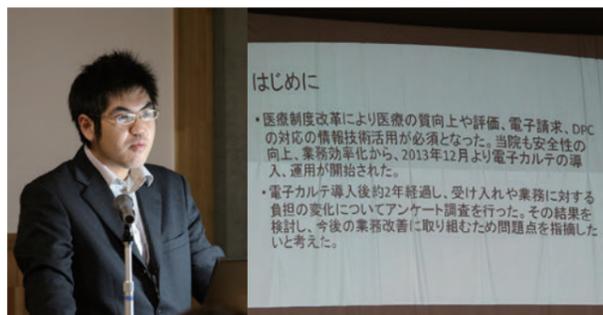
演題：DPC 開始に向けての取り組み
～当院の現状と今後の課題～

発表者：◎武田義弘 増永義則 大屋 讓 上本文子 片桐光代
幸野紀美重 加口美香 須川雅夫 工藤真一
小橋敦史 峯かおる 久保太郎 高橋孝吉
所 属：佐賀関病院リハビリテーション室 理学療法士



演題：『海の会』
～ソーシャルワーク理論・アプローチの学びの場として～

発表者：◎大塚奈々 玉井進 工藤真一 高橋勝
所 属：関愛会 SW 勉強会「海の会」



演題：電子カルテ導入における2階病棟医療スタッフの業務の変化についての報告

発表者：姫野未央 ◎幸地力哉 森里美 久光沙知
所 属：佐賀関病院 2階病棟



演題：清川診療所勤務 2年7か月の歩み
～専門診療から総合診療へ～

発表者：坪山明寛
所 属：清川診療所 院長



演題：第2ブロックの管理栄養士の役割と今後の取り組み

発表者：廣瀬明子
所 属：関愛会 第2ブロック 管理栄養士



演題：中途採用看護師にむけた指導の取り組み

発表者：◎江川敦子 片桐光代 池田弘美
所 属：佐賀関病院 外来



第17回 学術集会

関愛会 理念のもとに…
～地域と共にこれからも～

平成28年3月9日に佐賀関市民センター集会室にて今年度2回目となる第17回学術集会が開催されました。
当日は約200名の職員が参加し、9つの発表に対し積極的かつ活発な議論が交わされました。いずれの発表も、関愛会の理念である「地域包括医療の推進」「地域貢献」「自己研鑽」を十分に理解し、実践されている素晴らしい発表でした。
今後も私も関愛会は、「地域包括医療の推進」「地域貢献」「自己研鑽」の理念のもと、地域のみなさまを「支える医療」を目指してまいります。



※発表者複数記載の場合は、主発表者に◎





訪問リハビリテーションの様子

写真は、もうすぐ90歳になる方です。そして91歳を迎えるご主人に急ぎよスマホ操作をお願いし、奥様と私の姿を収めてもらいました。娘さんにこれを見せると、「お化粧させとけばよかった」と大笑いでした。

機能回復が中心ですが、それに対しご自宅でのリハビリは日々暮らしている場所であり、ご利用者さまの暮らしに合わせたリハビリを行います。全人的復権がリハビリの本質であるならば、訪問リハは、

その本質に近いリハビリが提供できると、自分の仕事を通じて実感しています。
川野…その人らしく生きるためには、私たちもその人のことを知らなければいけない。それが一番わかるのは、やはりご自宅にお邪魔した時なんです。
後藤…ご利用者さまの暮らしぶりを知ることでコミュニケーションが生まれてくるし、その人らしさの形もわかってきますよね。
川野…訪問リハだけでなく通所リハの場合でも、その人らしさを見つげるためにご利用者さまのご自宅を必ず担当セラピストが見に行きます。リハビリという機能回復訓練のことばかり考えてしまいがちですが、ご利用者さまの気持ちに寄り添ったコミュニケーションがとれると、自然と体も動いてきます。まさに「心が動けば体が動く」。まずは心が動かないとリハビリは始まりません。リハビリの第一歩は信頼関係なんです。
高橋…確かに大変なこともありますが、楽しいことのほうが多

は訪問リハビリテーション事業所を『佐賀関病院』から『こうぎクリニック』へと移し、11月には『きよかわもみの木』を開設しました。平成27年4月には『坂ノ市もみの木』の開設にあわせ、新たに在宅部門に言語聴覚士と管理栄養士を配置しました。身体機能は運動だけで回復するわけではなく、きちんと食事をとり、しっかりと栄養を吸収できることが大事なんです。セラピストや看護師、介護福祉士だけでなく、食事という別の

視点を持つ専門スタッフが加わることで、摂食・嚥下（飲み込み）栄養面などのサポートもできるようになりました。
■在宅リハの中で、訪問リハと通所リハの違いはどういったところでしょうか？
川江…リハビリには「全人的復権」という概念があります。障がいがあっても、その人らしく生きてゆくということです。病院でのリハビリは一般的には

その本質に近いリハビリが提供できると、自分の仕事を通じて実感しています。
川野…その人らしく生きるためには、私たちもその人のことを知らなければいけない。それが一番わかるのは、やはりご自宅にお邪魔した時なんです。
後藤…ご利用者さまの暮らしぶりを知ることでコミュニケーションが生まれてくるし、その人らしさの形もわかってきますよね。
川野…訪問リハだけでなく通所リハの場合でも、その人らしさを見つげるためにご利用者さまのご自宅を必ず担当セラピストが見に行きます。リハビリという機能回復訓練のことばかり考えてしまいがちですが、ご利用者さまの気持ちに寄り添ったコミュニケーションがとれると、自然と体も動いてきます。まさに「心が動けば体が動く」。まずは心が動かないとリハビリは始まりません。リハビリの第一歩は信頼関係なんです。
高橋…確かに大変なこともありますが、楽しいことのほうが多

いですよね。
■関愛会の考える在宅リハとはどういったことでしょうか？
川野…在宅リハというのは、病院に比べてセラピストによる個別リハビリの提供時間は圧倒的に少なく、毎日リハビリを提供できるわけではないんですよ。病院で回復してきたご利用者さまが、退院したあとに機能が低下しないようにするためにどうしたらよいかまず考えましたね。そこで導入したのが、『パワーリハビリテーション』です。これは、セラピストによる個別リハビリ以外の時間にも、介護福祉士などの付き添いのもと、機械を使った運動をしていただきます。筋トレとは違い、軽い負荷で繰り返し行うので、高齢者や心臓が悪い方でも無理なく運動を開始できるのが特徴です。この機械での運動は、移動の際の立ち座りの動きや、日常生活動作の練習も兼ねて行えるんです。



こうぎクリニック
訪問リハビリテーション事業所
主任
川江 章利(理学療法士)

こうぎデイケア
リハビリテーションセンター もみの木
主任
高橋 春美(介護福祉士)

きよかわ
リハビリテーションセンター もみの木
主任
後藤 智穂(理学療法士)

坂ノ市
リハビリテーションセンター もみの木
関愛会在宅リハビリテーション室 室長
川野 剛士(理学療法士)

【特集】“心が体を動かす”～在宅リハビリテーションの可能性～

【2016年1月15日『坂ノ市 リハビリテーションセンターもみの木』にて】

■本日は関愛会在宅リハビリテーション4部門のリーダーにお集まりいただき、在宅リハビリテーション（在宅リハ）に対する想いを語ってまいります。まず川野室長、在宅リハについて簡単に説明していただけますか？

で、早期に退院する方や、急性期病院から回復期病院を経由せずに、直接在宅に帰られて、リハビリを受ける方もいらっしゃいます。
 病院の中ではなく、早期から暮らしの中での自立と回復を促すという方向にリハビリのあり方がシフトしてきているように思います。

『関愛会』では、平成19年の7月に『こうぎクリニック』の開設と同時に、『こうぎもみの木』が併設されたのが最初です。当時は、鶴崎以东の地区では在宅でのリハビリテーションの資源が乏しく、介護保険分野の通所リハとしては唯一の事業所でした。その後、平成23年の4月に



意味は「連携」、「協働」、そして「あきらめないところ」。

デザインはリハビリテーションの皆で試行錯誤して手作りしました。



パワーリハビリテーションの様子
坂ノ市リハビリテーションセンターもみの木

このように、もみの木では開設当初から、多職種協働でリハビリテーションを提供するようになっています。専門的なりハビリは理学療法士や作業療法士等が行ないますが、施設内での「活動」のほとんどはセラピスト以外の職種が担っています。また一度に多くのご利用者さまに集団でリハビリテーションを提供できるレッドコードという機械も導入し、こうざきもみの木では介護福祉士が実施しており、人気のプログラムです。

多職種協働でそのご利用者さまに対して向き合い、「目標」を共有し取り組むことで、利用回数等にも寄りますが、利用開始後3〜6ヶ月程度で身体機能の改善が認められるケースも多くあります。特に退院後は大切で、集中的に利用することで1ヶ月程度で改善が認められるケースも見られてきて驚いています。介護度が高いご利用者さまでも刺激を入れることで、自発的に食事を食べるようになったケースもありました。そのご利用者さまに関わるチームが力を合わせることで、1+1=2ではなく3にも4にもなり得ます。時には想像をはるかに超える変化を見て感動してしまいます。

その他では、通所リハと訪問リハの併用ですね。ご自宅で行うリハビリともみの木に通って行ったりリハビリでは、やはり違うんです。環境も違うから雰囲気も違ってきます。2つのリハビリを効果的に組み合わせることで、短期間でより効果的に在宅リハが提供できます。この取り組みは、埼玉県川越市で行

われた全国デイ・ケア協会の全国大会で発表し、「面白い試み」として評価していただきました。介護保険というのは自立支援や尊厳が根本にあるので、そこにアプローチせずに、身体機能のみにアプローチし続けるだけのリハビリでは意味がないです。私たちの訪問リハは介入前に明確な「目的」を設定して取り組むようにしています。目標を明確にするよりリハビリのプログラムが明確になります。すると効果も早いですし、終了者のうち、5割が卒業者となっております。またその卒業者の中で6割くらいの方が3ヶ月程度で卒業しています。

高橋：自宅から出ることがなかったご利用者さまが訪問リハで外出できる方法を獲得したら、通所リハに来ていただく。ご自宅という環境から外に出ることも社会参加となります。そして状態を維持しながら、新しい目的を見つけるのも有効な方法だと思います。

川野：『こうざきもみの木』では土曜日に『人生活き生き道場』

の相乗効果が生まれてくる。そしてこちらが思っていた以上のことが起こると、すごく嬉しいんですよ。
川野：これは技術がどうではなく、人と人とのコミュニケーション。だから人が好きじゃないとできない仕事ですね。

■素晴らしいお話ですね。『関愛会』の在宅リハは、共通のコンセプトを大切にしつつ事業所ごとに地域ニーズに合わせた展開をなさっているとお聞きします。
『ぎよかわもみの木』での活動をお聞かせください。

後藤：まず、できることは自分ですするというのが基本です。こちらが手を出すのは簡単ですが、そこを抑えてアドバイスをしながらご利用者さまのがんばりをじっくり見守っています。それと、清川町は畑で野菜を作ることを楽しみにされている方が多い地域でもあります。私たちは、その「活動」がいかに維持できるかというところまで考えますので、担当の職員が畑までの道

筋と畑の状況なども確認したりします。野菜を収穫すれば帰る道は荷物が増えるので、不安定な畑道を野菜を持って歩けるようなりハビリのメニューも取り入れるんです。しかし私たちは週1・2回程度しか関われないので、あとは自宅での本人の努力なんです。

”ご利用者さまの日常を見きわめる・情報収集を会話に盛り込む”の2つを全員で心がけています。何より嬉しいのは、ご利用者さまが「休みたくない。『もみの木』に行きたい」と言ってくださることですね。それは、施設の中でみなさんに役割を作っているからなんです。シートをたたんだりゴミ袋に名前を書いてもらったり、体操の時に前で指導してもらったりなど。自分の役割があるということは、自分の存在する意義が『もみの木』にあるということなんです。

■では、高橋さんには介護福祉士として在宅リハに携わる上で心構えなども伺わせてください。



ご利用者さま主体の役割づくり きよかわリハビリテーションセンターもみの木

を開いています。ここでは外出することをメインにしています。室内で自由に動けるようになってきた方が、今度は買い物に外出してみたいとか。やはりご病気や障害を負い消極的になっていらっしゃる方が多いので、他のご利用者さまをはじめ、誰かに「私も行くから、一緒に行ってみましょう」と言ってもらえたら、その言葉が背中を押してくれますよね。それを私たちが演出というか、支援するところまでを含めてリハビリと思うんです。みなさん病気や障害を負うと、好きだったことを諦めてしまわれます。しかし、私たちはご利用者さまの体調を含め、きちんとサポートしてあげられるんです。ちよつとした動機付けや新しい目標を見つけてお手伝いをさせていただくんです。努力が必要なりハビリでも、好きなことのためにがんばられるんですよ。

■関愛会在宅リハの合言葉は「あきらめないところ」ですね。これについてお話しただけですか。

高橋：「もう一生車イスです」と言われたご利用者さまが、自分の足で歩くどころか木に登れるぐらいにまで回復したのを実際に見られたことが大きいんです。努力を重ねて奇跡を起こされたからこそ、私たちにも「あきらめない心」がしっかりと根付きました。それからは絶対に無理だと考えることはなくなりました。もちろん達成したときの喜びはご本人さまが一番ですが、私たちも本当に嬉しいんです。『あきらめないところ』はご利用者さまから教えていただきました。私たちがあきらめてしまつたら、ご利用者さまの可能性をそこで閉ざしてしまうわけですからね。

川江：それには、私たち自身も元気で活動的でないといけませんよね。口先の言葉だけではなく、全身からみなぎる気力がなければご利用者さまには伝わらないと思います。ですから自己管理も大切かと。まずは一人ひとりが元気で、そこから全員でもっと大きな元気を発信していく。そうするとご利用者さまと



リハビリ以外の時間も活動しています。
こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木



車イスのご利用者さまでもあきらめません。
坂ノ市リハビリテーションセンターもみの木

まの ”生活の質“ を変えるために何ができるのか、自分だけでなく仲間と一緒に考えることを常に大切にしています。
川江さんはマルチプレーヤー的な存在になれるよう心がけています。理学療法の専門的な知識を持ってリハビリに臨むのですが、それにとらわれすぎることなく「専門的な知識を基本にし

後藤さんも自分が笑顔であること、みんなも笑顔でいるということですね。そしてご利用者さま本位であるということ。なにか行う

「後藤」私も自分が笑顔であること、みんなも笑顔でいるということですね。そしてご利用者さま本位であるということ。なにか行う

て、様々な場面にも柔軟に対応できますよ」と。理学療法以外の知識を吸収しながら自分の幅を広げていきたいですね。訪問リハの現場では様々な場面に遭遇します。専門性と同時に柔軟な対応こそ求められると思います。
高橋さんは、その人を知るということです。そのうえでしっかりと信頼関係を築くということですね。『こ

もみの木 訪問リハオフィシャルブログ
日々の活動、スタッフの想いを綴っています。是非ご覧になって下さい。
もみの木 リハビリ 検索

■今後も、地域になくはならない存在として成長を続けてください。本日はどうもありがとうございました。

ときに業務優先になっていないかと、常に問いかけるようにしています。あとは迅速な対応です。ご利用者さまが来るのが週1回だと、その日に対応できなかったら次に会うのは一週間後なので、「今日笑ってくれなかったけど、次は笑ってくれかな。7日も先だなあ」と悔やんでしまいます。やっぱり、今日もみんなが笑っているかですね。

■川江さんは他院を含め9年間病院での業務経験を経て、昨年訪問リハビリテーション事業所に異動されたと伺いました。病

院でのリハビリと訪問リハの違い、また訪問するうえで心がけていることなどもお聞かせください。



集団レッドコードの様子
こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木

川江さん訪問リハを担当することになり、その印象をスポーツで表現するならば、病院や施設に来ていただいたりハシリするのはホームですね。反対に訪問リハがアウェイ。同じリハビリでも内容は全然違います。病院には

様々な専門設備が揃っています。当然そのような設備はありませんが、私が体ひとつで自宅を訪問するという、まさにアウェイな状況です。しかし、それが醍醐味とも言えます。同じリハビリでも提供できる量は訪問リハの方が格段に少ない。でも、実生活の中でその人らしく暮らすことがリハビリの本質であるなら、病院でのリハより訪問リハのほうが、より本質に近いと思います。特にご夫婦2人暮らしというケースが多いのですが、その場合はご利用者さまの伴侶の方へのケアも必要な場合があります。ご家族さまも不安です。2人暮らしなら伴侶の方の肉体的・精神的負担も大きいですから。ですから、ご家族さまのケアをすることでご利用者さまが生き生きと暮らせるのなら、時にはご家族さまのケアを優先することもあります。ご利用者さまの身体機能をアップするだけがリハビリではなく環境を整えることも大切で、家庭での一番の環境は、ご家族なん

すよ。訪問リハでは、ご利用者さまとのコミュニケーションと同じくらい、ご家族との協力や理解が不可欠です。ご自宅にお邪魔する時はまず私という人間を認めてもらうよう心がけています。認めていただかないことには、”ホーム“には入って行けないんです。
■ありがとうございました。では最後に、みなさんが在宅リハに関わるうえで、最も大切にしていることは何ですか？

川野さんご利用者さまの担当として、私たちがその人にきちんと対応できなければ、ご利用者さまの人生が変わってしまう。セラピストというのは、良くも悪くもそのくらいご利用者さまに影響を与えてしまうと思っています。それを肝に銘じて常に最善を尽くすよう心がけています。それと多職種協働という部分で、仲間意識は強く持っています。だからチームとして、職種に関係なくみんな同じユニフォームを着ているんです。ご利用者さ

すよ。訪問リハでは、ご利用者さまとのコミュニケーションと同じくらい、ご家族との協力や理解が不可欠です。ご自宅にお邪魔する時はまず私という人間を認めてもらうよう心がけています。認めていただかないことには、”ホーム“には入って行けないんです。
■ありがとうございました。では最後に、みなさんが在宅リハに関わるうえで、最も大切にしていることは何ですか？

関愛会リハビリテーション施設のお問い合わせ、ご相談はお気軽に
● こうざきデイケア・リハビリテーションセンターもみの木
● こうざきクリニック訪問リハビリテーション事業所
大分市大字本神崎251番地8 (こうざきクリニック2階) 電話：097-576-1212
● 坂ノ市リハビリテーションセンターもみの木
大分市坂ノ市中央1丁目269番 (坂ノ市クリニック3階) 電話：097-578-6835
● きよかわリハビリテーションセンターもみの木
豊後大野市清川町砂田1877番地3 (清川診療所内) 電話：0974-35-2333

豊後龍馬会!! 世界の海へ出港!!

本書を書くにあたって、佐賀関町が大分市と合併し、様々な変化のなか早12年になる事を思い出しながら、現在進行形の佐賀関物語をお話し致します。

平成の大合併を終えて、さて旧佐賀関町は、良くなつたのか?と考える日々が続く、行事と行政の変化に翻弄された数年でした。その合併から数年後に豊後龍馬会が発足されました。

会の発足のきっかけは、佐賀関に坂本龍馬さんと勝海舟先生が大分に初めて上陸した港町で、徳應寺に宿泊しました。長崎まで、長州に対する西洋列国の連合艦隊の砲撃を止めさせる為に、二人が旅した2ヶ月間の道中が、佐賀関、鶴崎、野津原と肥後街道を通った事で、東部・佐賀関地区を中心に結成された会が「豊後龍馬会」です。

その活動は、地域の振興と子どもたちの教育に着目し、また、安心して子どもたちを育てる環境づくりを推進します。また、大分市、大分県に多くの若い方々

が定住し、老若男女が暮らしやすい地域一番県の発展を応援する会であり歴史の好きな人ばかりの会ではありません。心熱い志の高い市民の会です。

と、いう事で、大義と経緯をお話ししましたが、そもそも豊後龍馬会は、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」の放映年度に結成されました。佐賀関からは、私人の参加。メンバーの大半が鶴崎地区、大手企業のOB、政治家、医療、会社役員、教育、会社員等、様々な職種と個性豊かな方々です。今までの活動は、世界からも大勢参加する全国龍馬会や九

州龍馬会との交流や、年に一度の龍馬子ども塾、小・中学生を中心に医学・道徳等の夏休み塾を開講しています。

現在、会長になり七年目になりました。本年は、全国龍馬の集い「龍馬社中全国大会」が、福岡市のJR龍馬会主管で九州龍馬会での開催となります。また、来年は大分県に、「龍馬社中九州ブロック大会」を誘致し、大分市で開催されます。立て続けに大きな大会が九州ブロックであります。龍馬社中では、世界各国に現在171(平成28年3月現在)社中あり、

熱い方々の集まりで、もって地域を、もって県を、もって日本を、もって世界をと発展的な子どもたちの未来が広がるように願い、振興活動している会です。

様々な団体の中で、ほかの会に属していない方や、若者たちの中でも今の日本を憂い思っている方は大勢います。でも、どうやって良いのか?どう活動したら良いか?悔しい思いで出来ないのが大半です。龍馬さんが思い描いていた事は、梓にはまらず皆思いが同じ者が集い、「こ

の指止まれ」というような感じで、「一緒によろくぜよ」と言っただ事と思えます。本当の意味での地域貢献とは何かと考えると、一人ひとりの意識改革から始まり、「協働」することにより、必然と道筋ができることです。互いにコミットしながら進むことが重要であり、成功の鍵でもあると信じています。

また、東部・佐賀関振興協議会と協働作業で、大分市の独身男女を集め鶴崎地区で、龍馬・海舟大分上陸151年を記念し、「151一期一会龍馬の集い」を佐賀関市民センターからスタートし、徳應寺の住職に講話を頂きましたが、女性の方々が真剣に話しを聞いていたのに驚きました。それから、鶴崎の毛利空想記念館で龍馬会会員の歴史的背景を聞き懇親会へと。その前のアンケートにも真剣に答えて頂き、大分市に居住し子育てしやすい環境に対してのデータを「豊後八策」として、佐藤市長に提言書をお渡ししました。その後、多くのチャンスがありました。カップルは中間で6



勝海舟の玄孫である高山みなみさんと



「JR龍馬会」会長のJR九州青柳社長と



151一期一会龍馬の集いのポスター



豊後龍馬会の法被



勝海舟・坂本龍馬像 除幕式にて



豊後龍馬会メンバーと



豊後龍馬会 会長
御菓子司 高橋水月堂 代表
大分市観光協会副会長
高橋 幹雄、

組、最終で1組、後日談では、懇親会終了後に飲み会を開催してカップルが複数誕生し、お付き合いが続いている旨の報告をいただきました。ここ佐賀関も町の少子高齢化が進んでいます。地域貢献と地域医療の拠点を担っている「社会医療法人 関愛会」は、旧町の住民にとってなくてはならない存在で、「パンパシフィック・カップル」と同様に地域の雇用と活性化に大きな影響をなす医療機関であり、子育てする上で安心して暮らせる町としての象徴でもあります。これからのまちづくりは、地域参加で今から子育てする方々が中心となり、高齢者は健康老人で、今までの経験を活かし、子育て活性化のサポートになる地域振興が必要だと思っています。

我々、豊後龍馬会も将来の日本を牽引して行く子どもたちの支援と、高齢者支援を東部・佐賀関地区振興協議会と地域と共に協働して取り組んでいきたいと思っています。

9月 関の鯛つりおどり大会

今回も関愛会から約100名が佐賀関の風物詩である「関の鯛つりおどり大会」に参加致しました。当日は職員のお子さんの参加もあり、法被姿のかわいらしいお子さんの姿に参加した職員のみなさんも目を細めていらっしゃいました。



10月 ボナムジカ音楽祭 ～秋のポルコ～

佐賀関出身で現在東京で活躍されているテノールの紀野洋孝さんとパーカッションの宮田隆幸さんのお二人とピアノの圓谷俊貴さんとで開催された「ボナムジカ音楽祭」に関愛会の理念の一つである「地域貢献」の一環として協賛いたしました。これを機会に今後もここ佐賀関で芸術文化が醸成され、未来を担う子どもたちの豊かな感情を育み、地域振興の一助となることを願っております。



11月 第1回 佐賀関病院杯 健康づくりグラウンドゴルフ大会

グラウンドゴルフ愛好者をはじめ、地域の方々の健康づくりと地域の方々との交流を含め、よりよい地域づくりを目指して「健康づくりグラウンドゴルフ大会」に特別協賛をいたしました。約200名もの方々のご参加をいただき盛大に開催されました。今後も私ども関愛会は地域の方々と手を携え、地域の皆さまと歩んでまいります。



1月 2016年 初詣

仕事始めとなった1月4日に佐賀関の早吸日女神社に長松会長、増永理事長をはじめ、各事業所、部門の責任者で初詣に伺いました。今年1年の安全と健康、そして関愛会の益々の発展を祈願いたしました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



3月 桜の木

介護老人保健施設 せきの郷にあった、桜3本が大分県の事業に伴う撤去対象となり平成28年2月に伐採いたしました。旧一尺屋中学校の開設時に植樹され、約30年にわたりこの地を見守ってきた桜を伐採することは非常に残念でした。伐採に際し、ソメイヨシノ3本の寄贈の申し出をいただき、平成28年2月19日に施設横に植樹をさせていただきました。伐採された3本の桜に代わり新たな桜が、せきの郷と地域を見守ってくれるでしょう。桜の咲く時期には、是非見にいらしてください。



社会医療法人 関愛会
介護老人保健施設 せきの郷
工藤 真一

平成28年4月1日より
入院医療費の計算方法が変更されました。

佐賀関病院では、入院医療費の計算方法として、従来の出来高計算方式から、『包括評価方式(DPC)』による計算方式を導入いたします。

佐賀関病院では、平成28年4月1日より、新しい入院費用の計算方式として「DPC(診断群分類別包括評価制度)」による請求となります。従来は、投薬・注射・検査などの診察行為を行った分を合計して計算する「出来高算定」方式でしたが、DPCでは入院患者様の病名・症状をもとに診療内容に応じて分類された疾患ごとに定められた1日当りの定額の点数を基本に、手術やリハビリ等を出来高として加算し、入院費を計算する新しい方式です。この新しい計算方式により、医療費の目安が患者様にもわかりやすくなります。

包括評価方式での算定方法

従来の出来高方式

行われた診療行為のすべてを合計する計算方式です。

- 投薬・注射料
- 検査料
- レントゲン料
- 処置料
- 入院料など
- 手術料
- リハビリ・その他

包括評価方式(DPC)へ

新しい包括評価方式

一日あたりに包括金額が設定されており、投薬・注射・検査・レントゲンなどの料金が含まれています。(一部診療内容は除く)

- 投薬(退院処方を除く)
- 注射料
- 検査料(一部を除く)
- レントゲン料
- 処置料(一部を除く)
- 入院料など

出来高評価

- 手術料
- リハビリ・その他

- ◎患者様の病気・治療内容によっては、この制度の対象とならない場合もあります。
- ◎手術やリハビリなどについては、これまで通り「出来高算定」の計算となります。
- ◎食事代は、これまで通りの金額をご負担いただきます。
- ◎入院後の病状や治療内容によっては、診断群分類が変更されるため、退院時に入院時まで遡って、変更に伴う診療費の差額調整を行います。
- ◎佐賀関病院では、平成28年4月1日から新しく入院された患者様より、DPCにて計算いたします。
- ◎外来については、これまでと同じ計算方式になります。

お問合せ先 佐賀関病院 医事課 入院担当者まで